

中学生の「税についての作文」

福岡県筑後県税事務所長賞

税金にありがとう

大川市立大川桐英中学校

三年 西

笑

私が中学校に入学して、少し経ったところ、家が火事になった。それも全焼で日用品や住む場所など全てのものがなくなつた。私の家だったものは、上半分がなく骨組みだけののこつていた。

私たち家族は、しばらく祖父母の家に泊まることになった。両親が市役所へ行き、手続きをおえると、毛布などの生活に必要なものをいただけただけ。何もなくなっていたから、とてもうれしかった。住む場所を提供していただけたこともあって、本当に助かった。母によると、しばらくしてお見舞い金もいただけたそう。私は、火事があつた次の日に学校へ行った。家においていた教科書などは、もう一度もらうことができた。そのおかげで、一週間もたてば学校生活を送る上で不自由なことはなくなった。私は家が火事になって、生活が苦しくなるだろうと思っていた。でも、その思いは一瞬で税のおかげで新しい生活を楽しむ不自由なく送ることができた。私は、税金は豊かで安心した暮らしができるためのものだと思つていたけれど、心の中では本当に税金が必要なのだろうか、税金を払わなくても安心した生活ができるのではないだろうか

かと思つていた。でも今回、そうではないことを身をもって体験した。もし、消防隊がきてくれなかったら、そのまま火事の規模が拡大して、取り返しのつかないことになっていたかもしれない。税がなかったら、そう考えると、私が安全に安心して生活できる姿は思い浮かばない。税を払うことは、人助けにもつながると思う。誰かが困つていれば、税で助け合う。税にはそういう役目もある。私たちの生活の中で税金を払うのは大変だ。でも、税を払うことで困つた人を助けられる。逆に、困つたことがあれば税を通して助けてもらえる。税はやっぱり私たちが生活していく上で必要なものだし、これからも安全に安心して過ごすために払っていかなくてはならないものだ。最後に私は、税金があつて良かったと思うし、私を助けてくれた税金に感謝している。

